



Est.1912

まこと館だより

発行：至誠学舎立川 編集：法人事務局



令和 4 年度新入職員おめでとう

令和 4 年 4 月 1 日。辞令交付式が行われ 53 名の新しい職員をお迎えしました。人材難が叫ばれる中、とても嬉しく心強く感じました。縁があって法人とつながった方々です。法人の方針として経営・管理の重要テーマは、安定した経営と利用者への質の高いサービスの提供ですが、同時に働く人々たちに対しても「人財」として最大限の敬意と対応を大切にしています。日々の中で感じながら長く働き続けられる職場であって欲しいと思います。

「Love the life you live. Live the life you love」ジャマイカの歌手ボブ・マーリの言葉がありますが、人生を仕事に変えて「自分のやる仕事を愛せ。自分の愛する仕事をする」こんな人生にしたいと思いながら仕事をしています。皆さんは、一年間は「知識と技術」を習得することに精一杯だと思いますが、余裕が出たとき感じて欲しいと思っています。

新年度がスタートして 1 か月が経ち、そろそろ緊張も解れ疲れが出るころです。視線も下に向きがちですが、外に出て周りを見ると沢山の花々が咲き新緑が芽吹き自然界のエネルギーを力に変えられます。皆さんも、外に出てマスクを外して大きく深呼吸しながら自然界のエネルギーに力を借り「心と体」をリラックスしてお仕事に臨んでください。

今から未来に向けて

今、自然災害、コロナ渦だけではなく、AI など先端技術の高度化など…社会の変化が予測困難時代に未来を担う子どもたちの育ちを園でどのように支えていくかが問われています。

今の時代から未来に向けて何が必要かどんな視点で行くのか「園のありたい姿」や保護者や地域の方々の視点を取り入れて発信して理解と協力を求めていくことが大切です。今年度、お子さまの育ちのパートナーシップづくりとその価値を提供するためのリソース・プロセスをテーマに持ち職員とともに考えていきたいと思っています。

日本の人口減少は加速度的に進行し、保育所では定員の未充足が心配される地域もあります。立川市、国立市では 0 歳児の定員割れが起きています。保育園も待機児対策から選ばれ保育園が生き残れる時代に入りつつあります。

12 園の力を結集して、未来に向けてギアチェンジです。

保育事業本部長 長谷川 育代

本部事務局だより 「まさかの坂はどこにでもあるが、絶対というタイはどこにもいない」

長い間 110 円前後を行き来していた円が今年に入って急速に円安となり 130 円を超えてきた。

「まさか」近年の最安値 127 円をあっさり超えてくるとは、誰しも思わなかった。

アメリカのピックアップは 5.66\$ で昨年 1 月の為替レートは 104.3 円だったので 590 円で買えたが、今は 736 円出さなければ買えない。アメリカではコロナ禍の影響での原材料費・人件費・物流コストの値上がりによるインフレを抑え込むため、政策金利を年内に 2% 以上に引き上げるとされている。

これに対し日銀は、インフレになっても国内経済を支えるために低金利政策を継続すると表明している。これでは誰が考えても金利の高い国にお金流れ円安になるのは当然である。

そもそも低金利は国内経済を支えるのか？日銀は、円が安ければ輸出に有利なので輸出が増え経済にプラスだという。しかしその反面、食料・原油等を輸入に頼っている日本では、輸入物価は高くなり、消費は落ち込む。輸出過超の時代ならいざ知らず、海外生産に舵を切っている現在では国内経済に対する悪影響の方が大きい。巷では、円は年内に 150~200 円になると言い出す向きもある。「まさか」とは思うが「絶対ない」とは言えない。私たちにできることは、現金を手元にたんまりため込んで、不景気で株価が下がり買い場がくるのをひたすら待つことである。

(法人事務局長 野島 忠幸)



事業本部情報

児童事業本部

いつものごとく、あわただしかった年度末からあっという間に4月を迎えました。頭の整理が追い付かぬ中、真新しいランドセルや制服を身に着けた子どもたちの笑顔が自然と自分を新たな気持ちに押し上げてくれました。「今年度も子どもたちに負けずに頑張ろう！」そう思わせてくれました。

さてそんな年度初めから早くも1か月が過ぎ、もう5月になります。5月5日～5月11日は、児童福祉週間です。こどもの日から一週間、子どもや家庭、子どもの健やかな成長について国民全体で考えることを目的に定められています。今我々の身近で起きている児童虐待や子どもの貧困、ヤングケアラーの問題は少子社会の日本にとって大きな脅威になっています。ウクライナのような戦渦ではありませんが、一見平和なこの国でもすべての子どもたちが平和で安心できる家庭を持ち健やかに生きているわけではありません。過酷な環境で心身ともに傷つき、子どもらしさを奪われ、時に命をも奪われるような現実があります。

この国の将来を担う子どもたちのために今大人である我々は何をすべきか、この児童福祉週間の機会にあらためて思いを巡らせてみたいと思います。

令和4年度児童福祉週間 標語

『見つけたよ 広がる未来とつかむ夢』

(厚労省が募集 4,299 作品から、愛知県の子の作品が選ばれました。)

(至誠大地の家 施設長 石田昌久)

保育事業本部

昭和54年に開園した小百合保育園は「小さな子ども達百人が合い集い保護の中育つ楽しい園」として10月に44年目を迎えます。この度、第354回理事会にて承認を頂き、初代保坂園長、裕子園長、玉城園長からバトンを受け取り4代目園長として就任いたしました。「えんちょうせんせ〜い」と、子ども達から呼ばれると身が引き締まる思いが致しますが、毎日を積み重ね徐々に馴染んできているところです。さて、4月9日(土)令和4年度を始めるにあたり、全体保護者会を実施し、保護者の方々と心を合わせ新年度をスタート致しました。大切にしていきたいことは「まことの心」の実践。〈おもいやり・しんじあい・ともぞち〉です。子ども達はあたたかく見守ってもらい、共感してもらい、人と人と繋がりながら育ちます。いきいきと笑顔がいっぱい溢れる1年になりますように。

(小百合保育園 園長 吉田直美)

高齢事業本部至誠ホーム

立川市錦町の高齢事業部至誠ホーム敷地内には昔、「ちぶちばぶち」と呼ばれる池があったそうです。その池の水でお粥を作り食べると百日咳が治るといって、いわゆる「おしゃもじ様」信仰のパワースポットの一つであり、池のほとりに祀られていた祠は、今は至誠和光ホームの西側に移設され、至誠和光ホームに入居しているお年寄りが代々「風邪の神様」として定期的にお供えをし、手入れを行い守っています。その甲斐あってか？新型コロナウィルスが世の中に出現して以降、この原稿を作成している2022年4月18日現在まで、幸いなことに至誠和光ホームでは感染者が一人も出ていません。これも「風邪の神様」の御利益なのかと思いつつ、長い年月、自主的に毎週欠かさず祠の周囲を掃除し、お供えをし、手を合わせてくれている入居者皆様の存在も、「風邪の神様」と同じくらいありがたい存在ではないかと感じた今年の春です。

(至誠和光ホーム 園長 中川謙夫)



(編集後記)人が居ない道でマスクを外してみると、その季節の香りがふわっと香って癒されます。今の時期、草木の香りがして寒い冬がやっと終わったんだ！となんだか胸が弾みます。天気の良い日は根川や多摩川でピクニックも気持ちいですね♪(小)